



翼賛双六 1940(昭和15年)



終戦記念日に因んで戦時下の暮らしのわかる双六を紹介しします。この双六の作成を指導した大政翼賛会とは、日中戦争の長期化に伴い、第二次近衛文麿内閣によって組織された国民統制組織です。総裁には総理大臣が当たり、道府県

支部長は知事が兼任し、産業報国会・大日本婦人会・隣組などを傘下に収め、国民生活のすべてにわたって統制しました。

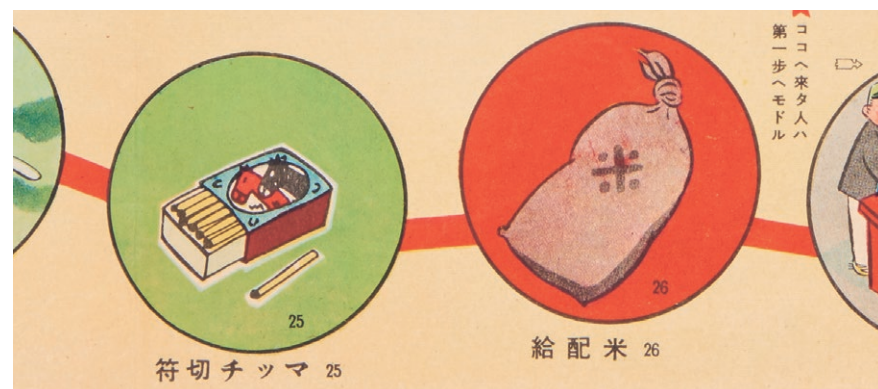
振り出しは国民学校で、八百屋、工場労働員などの商売や職業のコマが登場します。続いて、木炭配給、砂糖切符など生活必需品が不足するコマが並び、やがて、勤労奉仕、防空演習など国民の負担がどんどん増え、最後は、産業報国、枢軸強化などの国策を経て、大政翼賛会で上がりとなります。

じつは、この双六の作成には、新日本漫画家協会が深くかかわっていました。しかし、漫画の持つ政治社会体制を風刺する力は当時完全に失われていたのです。

この双六が作られた年、米国ではディズニーの「ファンタジア」が公開されました。魔法使いに扮したミッキーが登場し、バッハやストラヴィンスキーのクラシックを史上初のステレオで聴かせ、息を呑むような長編アニメーションで表現しました。私は、小学生のときにテレビでこの作品を見て、「本当に戦前に製作されたのか」と驚いた記憶があります。



上がりと現実のギャップ
最後のコマは「大政翼賛会」。その右上には「万歳」と書かれた富士山と日の丸の旗を立てた家並が見えます。一方では万歳どころではない暮らしがありました。



配給制度と切符制度
「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」の標語のもと、米は配給制(成人一日330g)になり、マッチや砂糖などの生活必需品は切符制になりました。

案・画：新日本漫画家協会
編集兼発行人：山下善吉
発売：漫画社
指導：大政翼賛会
印刷所：陸軍美術協会印刷部
定価：二十銭
サイズ：縦53.5cm×横77.5cm
所蔵=吉田修 写真=鶴崎 燃

文・監修 吉田修
よしだ・おさむ 1954年生まれ、島根県松江市出身。全国求人情報協会常務理事、NPOキャリア権推進ネットワーク広報部長、和文化教育学会会員を務める。築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取り組む。
公式HP=<http://www.sugoroku.net>

